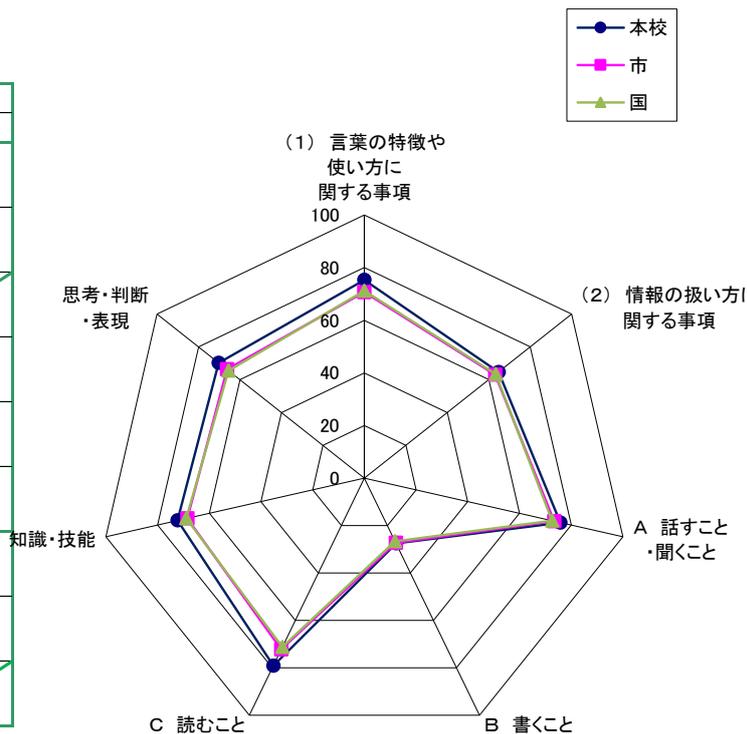


宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.3	70.7	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	64.7	63.1	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.8	73.4	72.6
	B 書くこと	27.5	27.3	26.7
	C 読むこと	79.1	72.2	71.2
観点	知識・技能	72.3	68.5	68.9
	思考・判断・表現	70.3	66.3	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や国より高い。</p> <p>○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問いでは、全ての問いで国の正答率より高い。これは、繰り返し漢字練習をしたり、単元ごとにミニテストを行ったりしてきた成果であると考えられる。</p> <p>●「日常よく使われる敬語を理解しているかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・今後も漢字を正しく書く力を伸ばしていけるよう、漢字の学習に繰り返し取り組む。</p> <p>・作文指導や話し合い活動、日常会話の中で、敬語を正しく使うことができるよう指導する。また、場に応じた適切な表現の仕方を繰り返し指導する。</p>
(2) 情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市より高く、国よりやや高い。</p> <p>○「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。</p> <p>●「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・他教科にわたり、図を見て、それが表す内容を適切に表現することができるよう、指導する。</p> <p>・原因と結果など、情報と情報の関係を考える授業を設定する。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や国より高い。</p> <p>○「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかをみる」問いでは、国の正答率より高い。国語の授業だけでなく、他教科にわたり、児童が中心となって話し合い活動に取り組んできた成果である。</p> <p>○●「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い問いと低い問いがある。</p>	<p>・引き続き、目的を明確に示しながら、話し合い活動に取り組ませる。</p> <p>・国語の授業だけでなく他教科にわたり、話し手が伝えたいことを考えながら聞いたり、自分の考えと比較して聞いたりすることができるような場を多く設定し、段階的に指導する。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市とほぼ同じで、国よりやや高い。</p> <p>○「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率よりやや高い。</p>	<p>・国語の授業だけでなく他教科にわたり、集めた情報を整理して自分の考えをしっかりとるよう、指導する。また、自分の考えを図表やグラフを用いて、工夫して伝える学習に繰り返し取り組ませる。</p>

C 読むこと	<p>平均正答率は、県や国より高い。</p> <p>○「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。中心となる語や文を見付けながら、段落相互の関係や筆者の主張を明らかにする学習に取り組んできた成果である。</p> <p>○「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。</p>	<p>・今後も、段落ごとに要点を読み取り、段落相互の関係や筆者の主張を明らかにする学習に取り組ませる。</p> <p>・引き続き、1人1台端末を活用して、様々な文章を要約し、友達に伝える課題に取り組ませる。</p> <p>・多くの本に親しむことができるよう、学校図書館を利用するなどして、読書活動を推進する。</p>
--------	---	--

宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.0	68.4	67.3
	B 図形	57.4	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	70.1	71.2	70.9
	D データの活用	69.3	68.3	65.5
観点	知識・技能	70.4	68.4	67.2
	思考・判断・表現	59.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、市とほぼ同じで、国よりやや高い。 ○「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、繰り返し計算問題に取り組んできた成果であると考えられる。 ●「()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。 ●「以上の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・加法や乗法の計算の仕方は、よく理解しているが、その式の意味することについては理解が不十分であった。日常生活の場面に関連させるような問題に取り組ませる。 ・「以上」「以下」「未満」などの言葉の意味を理解させるとともに、データから読み取ることができるよう、繰り返し問題に取り組ませる。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、市や国より高い。 ○「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、図形の基本的な性質を学習する際に、作図することを通して理解の定着を図ってきた成果である。 ○「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・三角形の面積を求めるために必要な要素についてよく理解していた。他の図形についても、繰り返し問題に取り組ませ、力を伸ばしたい。 ・既習の図形について、構成要素に着目できるよう、繰り返し問題に取り組ませ、理解を深めたい。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、市や国よりやや低い。 ○「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。 ●「伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・示された基準量と比較量から、割合を求める力が定着している。今後も、問題をよく読み、内容をよく考えて問題に取り組むことができるよう、支援していきたい。 ・二つの数量関係について、その特徴を読み取って立式できるように、様々な場面の問題に取り組ませる。 ・比例や反比例の関係にある二つの数量について、文章から分かることを、工夫して分かりやすく記述する学習場面を設定する。</p>

<p>D データの活用</p>	<p>平均正答率は、市よりやや高く、国より高い。 ○「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、他教科にわたり、資料を読み取る活動に取り組んできた成果であると考えられる。 ○「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「以上の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。</p>	<p>・グラフの特徴を読み取る力が定着している。これからも、算数、社会科、総合的な学習の時間を中心に他教科にわたり、資料を適切に読み取ることができるよう、多くの機会を設けたい。 ・表の中から、条件に合った数量を見出す力をつけるため、資料を用いた学習場面を設定し、児童の実態に応じて問題に取り組ませる。</p>
-----------------	--	---

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童の割合は(98.1%)で、国の肯定回答率を7.8ポイント上回った。
 ○「読書が好きである」と回答した児童の割合は(84.6%)で、国の平均より12.8ポイント高い。読書活動の充実を図るため、朝の学習で読書に取り組みせたり、休日も読書時間を確保できるよう家読を宿題として出したりした成果であると考えられる。今後も、様々なジャンルの本を読んだり、学習に関連した本を読んだりするなど、幅広い読書活動が行えるよう努めていきたい。また、引き続き、市立図書館の本も活用して、読書活動や調べ学習に取り組みせたい。
 ○「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか」という質問で、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は(42.3%)で、国の平均より14.1ポイント高い。1人1台端末を授業や児童会活動など、様々な活動で活用している成果であると考えられる。今後も1人1台端末を有効活用していきたい。
 ○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」という質問に肯定的に回答した児童の割合は(92.3%)で、国の平均より15.1ポイント高い。学級活動や児童会活動での話し合いの充実の成果だと考えられる。今後も児童の創意工夫を生かした学級活動、児童会活動を全校体制で行っていく。
 ●「新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は(9.6%)で、国の平均を3ポイント下回った。国語や社会の学習等で新聞を題材として取り扱ってはいるが、教科の学習以外でも新聞を読む時間を確保し、児童の関心を高められるようにする必要がある。

宇都宮市立雀宮東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」という問いでは、県や国の肯定回答率より高い。
・日記、作文指導	・家庭学習で、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書き、書く力を養う。	・「国語の授業で書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている」という問いでは、県や国の肯定回答率より高い。
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習の記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。	・「1日あたりの学習時間」や「計画を立てて学習しているか」の問いでは、県や国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数では、図形に関して、県の平均より低い問いがあり、課題が見られた。	・学習コーナーの活用	・学習で学んだことの理解をさらに深めるために、教室背面の学習コーナーに既習事項を掲示し、視覚的に学習内容が分かるよう、教室環境を整える。特に、作図の仕方や具体的な大きさや広さが分かる資料などを掲示して、児童の関心・意欲を高め、理解が深まるよう工夫する。